

中 日 新 聞

花園で健闘誓う

西陵高 ラグビー部主将ら来社

第八十六回全国高校ラグビー県大会で優勝した西陵高校(名古屋市西区)ラグビー部の山田和正監督と山森裕之主将、山本竜也副将が二十一日、岡田修校長とともに同市中区の中日新聞社を訪れ、全国大会での健闘を誓った。

同部は十八日の決勝戦で、得意のモール攻撃でトライを重ねるなど千種高校(同市名東区)を圧倒。58-14で破って二年ぶり三十五回目の優勝を果たし、十二月二十七日から花園ラグビー場(東大阪市)で開かれる全国大会の切符を手にした。

初采配(さいはい)で県大会を制した山田監督は「選手たちは最後まで気を抜かず、勝負に徹してくれた」と決勝戦を振り返り、全国大会に向けて「県代表としての期待を背負って臨みたい」と

全国大会での健闘を誓う西陵高ラグビー部の山森裕之主将(手前右)ら。中日新聞社で



抱負を述べた。

今年のチームは三年生が率先して練習に取り組み、下級生を引っ張るのが特徴。その先頭に立つ山森主将と山本副将は「夢見てきた場所に立つことができる。悔いの残らないようチーム全員で思い切りプレーしたい」と意気込んだ。

(伊藤智英)

全国高校ラグビー

大会ぶりの優勝を叩くAシードの東海大仰光(大阪第2)は東海大翔洋(静岡)を3-0で下し、初の16強入り、Aシードした。Bシード勢は大阪府立(大阪第3)大阪工業大(大阪第1)国学院大(大阪第1)など初戦を突破、中部地区の9校はすべて姿を消した。第4日は来年1月1日に3回戦の8試合を行う。

中部勢 姿消す
3シード13校
3回戦へ

大会別	107	11	11
大会別	243	0	0
大会別	245	0	0
大会別	247	0	0
大会別	251	0	0
大会別	255	0	0
大会別	259	0	0
大会別	263	0	0
大会別	267	0	0
大会別	271	0	0
大会別	275	0	0
大会別	279	0	0
大会別	283	0	0
大会別	287	0	0
大会別	291	0	0
大会別	295	0	0
大会別	299	0	0
大会別	303	0	0
大会別	307	0	0
大会別	311	0	0
大会別	315	0	0
大会別	319	0	0
大会別	323	0	0
大会別	327	0	0
大会別	331	0	0
大会別	335	0	0
大会別	339	0	0
大会別	343	0	0
大会別	347	0	0
大会別	351	0	0
大会別	355	0	0
大会別	359	0	0
大会別	363	0	0
大会別	367	0	0
大会別	371	0	0
大会別	375	0	0
大会別	379	0	0
大会別	383	0	0
大会別	387	0	0
大会別	391	0	0
大会別	395	0	0
大会別	399	0	0
大会別	403	0	0
大会別	407	0	0
大会別	411	0	0
大会別	415	0	0
大会別	419	0	0
大会別	423	0	0
大会別	427	0	0
大会別	431	0	0
大会別	435	0	0
大会別	439	0	0
大会別	443	0	0
大会別	447	0	0
大会別	451	0	0
大会別	455	0	0
大会別	459	0	0
大会別	463	0	0
大会別	467	0	0
大会別	471	0	0
大会別	475	0	0
大会別	479	0	0
大会別	483	0	0
大会別	487	0	0
大会別	491	0	0
大会別	495	0	0
大会別	499	0	0
大会別	503	0	0
大会別	507	0	0
大会別	511	0	0
大会別	515	0	0
大会別	519	0	0
大会別	523	0	0
大会別	527	0	0
大会別	531	0	0
大会別	535	0	0
大会別	539	0	0
大会別	543	0	0
大会別	547	0	0
大会別	551	0	0
大会別	555	0	0
大会別	559	0	0
大会別	563	0	0
大会別	567	0	0
大会別	571	0	0
大会別	575	0	0
大会別	579	0	0
大会別	583	0	0
大会別	587	0	0
大会別	591	0	0
大会別	595	0	0
大会別	599	0	0
大会別	603	0	0
大会別	607	0	0
大会別	611	0	0
大会別	615	0	0
大会別	619	0	0
大会別	623	0	0
大会別	627	0	0
大会別	631	0	0
大会別	635	0	0
大会別	639	0	0
大会別	643	0	0
大会別	647	0	0
大会別	651	0	0
大会別	655	0	0
大会別	659	0	0
大会別	663	0	0
大会別	667	0	0
大会別	671	0	0
大会別	675	0	0
大会別	679	0	0
大会別	683	0	0
大会別	687	0	0
大会別	691	0	0
大会別	695	0	0
大会別	699	0	0
大会別	703	0	0
大会別	707	0	0
大会別	711	0	0
大会別	715	0	0
大会別	719	0	0
大会別	723	0	0
大会別	727	0	0
大会別	731	0	0
大会別	735	0	0
大会別	739	0	0
大会別	743	0	0
大会別	747	0	0
大会別	751	0	0
大会別	755	0	0
大会別	759	0	0
大会別	763	0	0
大会別	767	0	0
大会別	771	0	0
大会別	775	0	0
大会別	779	0	0
大会別	783	0	0
大会別	787	0	0
大会別	791	0	0
大会別	795	0	0
大会別	799	0	0
大会別	803	0	0
大会別	807	0	0
大会別	811	0	0
大会別	815	0	0
大会別	819	0	0
大会別	823	0	0
大会別	827	0	0
大会別	831	0	0
大会別	835	0	0
大会別	839	0	0
大会別	843	0	0
大会別	847	0	0
大会別	851	0	0
大会別	855	0	0
大会別	859	0	0
大会別	863	0	0
大会別	867	0	0
大会別	871	0	0
大会別	875	0	0
大会別	879	0	0
大会別	883	0	0
大会別	887	0	0
大会別	891	0	0
大会別	895	0	0
大会別	899	0	0
大会別	903	0	0
大会別	907	0	0
大会別	911	0	0
大会別	915	0	0
大会別	919	0	0
大会別	923	0	0
大会別	927	0	0
大会別	931	0	0
大会別	935	0	0
大会別	939	0	0
大会別	943	0	0
大会別	947	0	0
大会別	951	0	0
大会別	955	0	0
大会別	959	0	0
大会別	963	0	0
大会別	967	0	0
大会別	971	0	0
大会別	975	0	0
大会別	979	0	0
大会別	983	0	0
大会別	987	0	0
大会別	991	0	0
大会別	995	0	0
大会別	999	0	0



大会ぶりの優勝を叩くAシードの東海大仰光(大阪第2)は東海大翔洋(静岡)を3-0で下し、初の16強入り、Aシードした。Bシード勢は大阪府立(大阪第3)大阪工業大(大阪第1)国学院大(大阪第1)など初戦を突破、中部地区の9校はすべて姿を消した。第4日は来年1月1日に3回戦の8試合を行う。

敗北も成長実感
○東海大翔洋は姉妹校の東海大仰光に激突を奪われて完封負けを喫し

た。前半、PGを立て続けに失敗。先制のチャンスさえあっただけに、本多監督は「点数で食らいつけば、もっと進んだ展開になったでしょう」と悔やんだ。

仰光とは今春の選抜大会2回戦でも対戦、3-7で完敗を喫していた。今回は半分の点差。「大學生と小學生が戦う感じ

が、高校生と中学生が戦う感じに変わった」と本多監督はチームの成長を口にした。

F.W勝負で吉杯
○持ち味の展開ラグビーを出し切れず、仙台育英の得意なF.W戦に持ち込まれたことが四日市體協にとって致命的だった。大会の組み合わせ決定後、仙台育英対戦としてF.Wを重点的に強化した。そこで得た手応えが戦術に活きを見せた。

F.Wで戦えると思えて、ケトルブランをつくらなかったが、甘かった」と下村監督。

坂井主将は「相手のF.Wが1枚も2枚も上だった。あれが実力」と悔しく完敗を認めた。

西陵3点差及ばず

関東王者を土俵際まで追い込んだ。3点差、ワントライで逆転の後半ロスタイム。一押し、押せ」の声を受けて、西陵モールがゴールラインに迫る。しかし、残り5分、密着が崩れて動かない。相手反則でラインアウトになるが、インターセプトされて無情のノーサイド。あと一歩、届かなかった。

西陵側はモールの攻撃の成否が勝負を分けた。若溪は対策を練ってきた。「モールが得意な西陵は強い。モール

になるが、ならないかの紙一重でタックルで倒すように徹した」と若溪の栗田監督。劇中ことができなかった。

西陵は序盤からモール対策にこずいた。出足が早いタックルでF.Wが倒され、モールで押し切れず、前半は各1トライで同点。後半4分にW.T.B加藤のトライでいったんリードするも、7、11分に連続トライを許し逆転された。

終盤は、ほとんど相手陣内で攻めながら、ゴールラインを越えることができなかった。

あと、2、3分あれば負けていたかもしれない」と栗田監督。

力を尽くしての惜敗に西陵の山田監督は「選手は頑張った。監督の力不足」と言葉少な。山森主将は「相手に研究されて、モールがなかなかつかれなかった」とした上で「でも、決して負けていなかった。胸を張りたい」と腹を据えた。(中村雄亮)

選手育成花開く

名護・沖繩初の3回戦進出

1-7の嫌々たるスコアで城東を下した名護の宮城監督は、ハンカチで目を押さえた。沖繩県勢初の大会3勝と3回戦進出。一やっつけられると思っていた。歴史を変えた子供たちにためどころ

と書いた。感動を噛みながった。

沖繩での本格的なラグビー初化は、1987年の海軍団体育館が会場。宮城監督は、その時期から知人のつてを頼って早大のコーチを毎年招聘

(しようへい)。今年は「足、走らぬものはない」と昨年のメンバーがら人も残り、高校日本代表候補にもなったC.T.B高里ら人材にも恵まれた。「どうしたら沖繩のラグビーが強くなるか」に専心し、継続的な育成がようやく花開いた。

優勝候補、東福岡とぶつかると回戦に「三日月に花園に立てるだけで満

終盤の猛攻実らず
○後半残り5分、両陣の最後の攻めが響く。相手をゴール前にくみ付けにする激状攻撃。しかし、東京の懸命の守りを